

# ユネスコエコパーク

Biosphere Reserves

私たちは豊かな生態系や生物多様性を保全し、  
自然に学び、持続可能な発展と調和を目指しています。



日本ユネスコエコパークネットワーク  
Japanese Biosphere Reserves Network

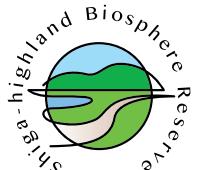




United Nations  
Educational, Scientific and  
Cultural Organization



Man and  
the Biosphere  
Programme



西山から見た白山©白山ユネスコエコパーク協議会



安房川と照葉樹林帯©屋久島町役場観光まちづくり課



草津白根山 ©志賀高原ユネスコエコパーク協議会



在来作物コウポウキビの移植作業©静岡市



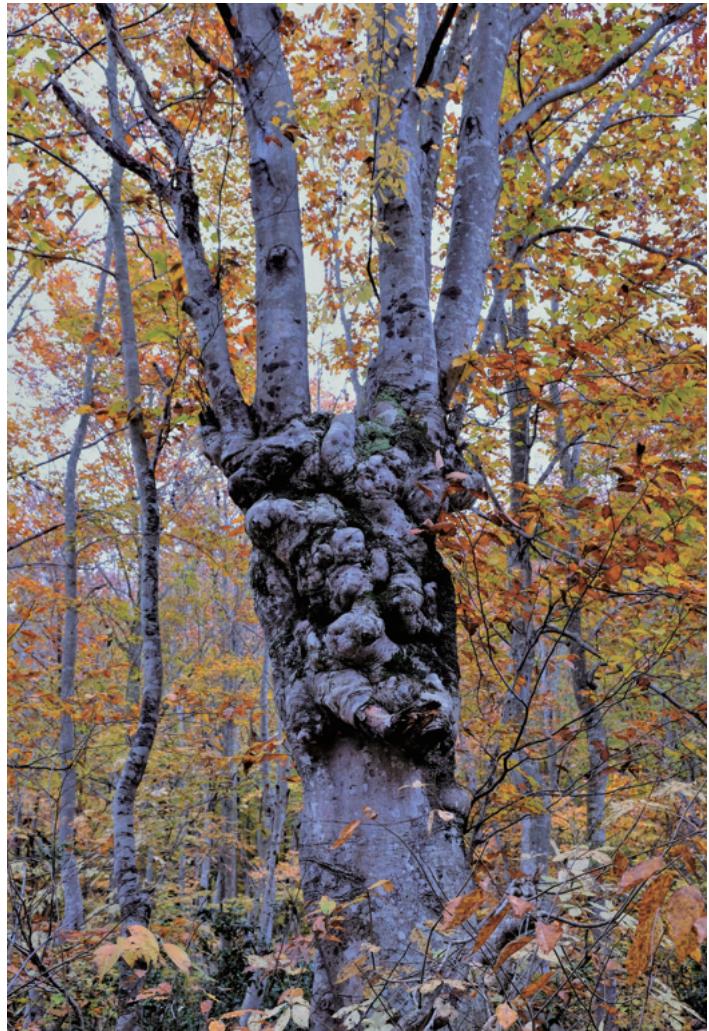
ホタルの乱舞©みなかみ町



Biosphere Reserves



日本ユネスコ  
エコパーク  
ネットワーク  
Japanese  
Biosphere Reserves  
Network



雪上伐採によってできたあがりこ型樹形のブナ©只見町



千曲川源流©甲武信ユネスコエコパーク推進協議会



傾山©祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク推進協議会



明神池(奈良県下北山村)©大台ヶ原・大峯山・大杉谷ユネスコエコパーク協議会



綾BRのシンボルツリー イチイガシ©綾町

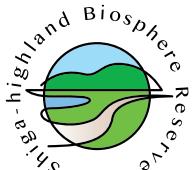




United Nations  
Educational, Scientific and  
Cultural Organization



Man and  
the Biosphere  
Programme



茶臼岳のライチョウ(オス)©静岡市



甲武信ヶ岳©甲武信ユネスコエコパーク推進協議会



源流域(赤谷の森)の空を舞うイヌワシのつがい©みなかみ町



四十八池湿原 ©志賀高原ユネスコエコパーク協議会

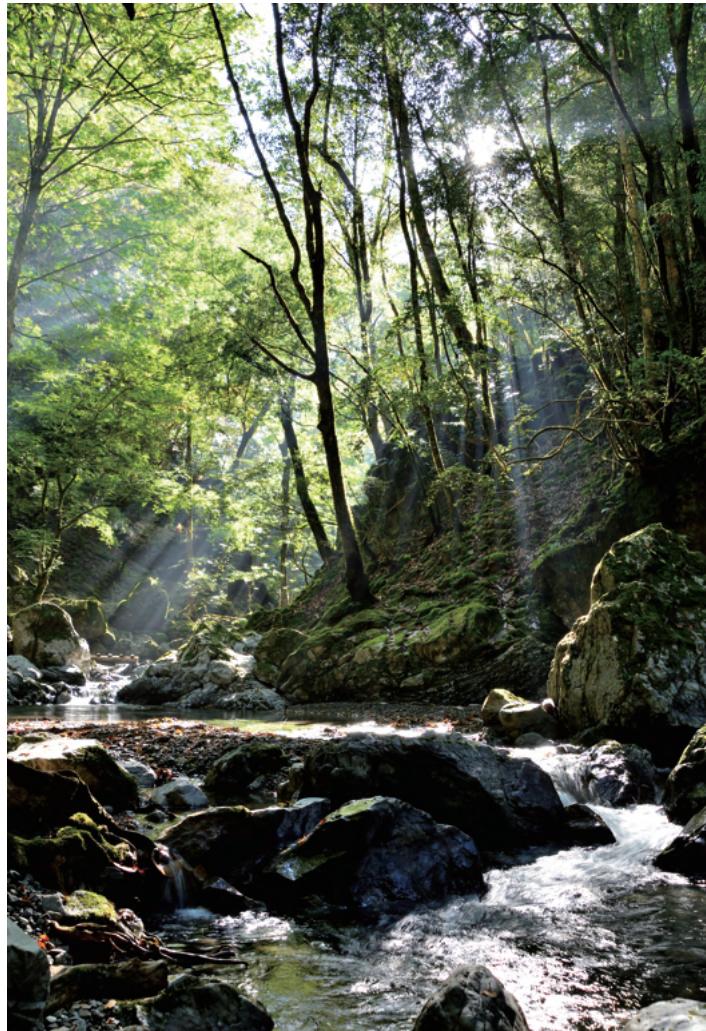
伝統芸能「小林・梁取の早乙女踊りと太々神楽」©只見町



Biosphere Reserves



日本ユネスコ  
エコパーク  
ネットワーク  
Japanese  
Biosphere Reserves  
Network



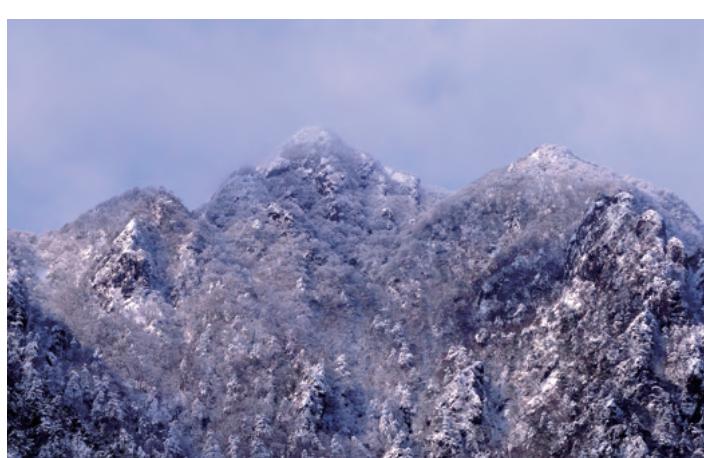
水源地の森(奈良県川上村)©大台ヶ原・大峯山・大杉谷ユネスコエコパーク協議会



別山平から見た白山©白山ユネスコエコパーク協議会



在来種を守り育てる綾ナチュラルガーデン©綾町



雪の祖母山©祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク推進協議会



ダイビング(移行地域)©屋久島町役場観光まちづくり課



## ユネスコエコパークとは

ユネスコエコパークとは、生態系の保全と持続可能な利活用の調和(自然と人間社会の共生)を目的として、1976年にユネスコが開始しました。ユネスコの自然科学セクターで実施される「人間と生物圏(MAB:Man and the Biosphere)計画」における一事業として実施されています。地域の豊かな生態系や生物多様性を保全し、自然に学ぶと共に、文化的にも経済・社会的にも持続可能な発展を目指す取り組みです。

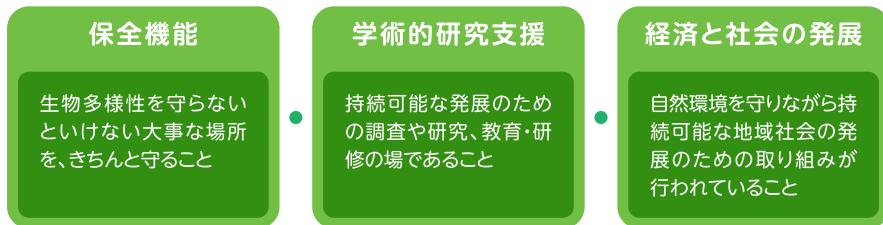
ユネスコエコパークは、人間と自然の共生に率先して取り組んでいる国際的に認定された地域のモデルとして、注目されています。

- ユネスコエコパークは国内通称で、正式名称は「生物圏保存地域(Biosphere Reserves)」と言います。
- ユネスコ(UNESCO:国際連合教育科学文化機関)とは、教育、科学、文化の発展と推進を目的として、1946年(昭和21年)に設立された国際連合の専門機関です。
- 人間と生物圏(MAB)計画とは、生物多様性の保護を目的に、自然及び天然資源の持続可能な利用と保護に関する科学的研究を行なうユネスコの事業です。

## ユネスコエコパークの仕組み

### 3つの機能

ユネスコエコパークには3つの機能があります。個々の機能は独立のものではなく、ユネスコエコパークを相互に強化する関係です。この3つの機能を果たすために3つの地域を設定しています。



### 3つの地域

ユネスコエコパークは役割の異なる3つの地域で構成されています。

#### 核心地域

多くの動植物が生息している自然豊かな地域。各国の法律により厳しく保護され、長期的に保全されることが必要な地域です。



#### 緩衝地域

核心地域の周囲または隣接する地域で、核心地域を守る機能を果たします。自然環境に負担がかからない範囲での調査や研究、教育、エコツーリズムなどに活用されています。



#### 移行地域

自然環境を守りながら、人々が居住し生活を営んでいる地域です。自然の恵みを活かした特色ある産業や文化など、持続可能な地域づくりが行われています。



# 日本のユネスコエコパーク

日本のユネスコエコパークは、全国で10カ所の登録地があります。

(2021年4月現在)

- 1980年登録 志賀高原、白山  
大台ヶ原・大峯山・大杉谷  
屋久島・口永良部島
- 2012年登録 綾
- 2014年登録 只見、南アルプス
- 2017年登録 祖母・傾・大崩  
みなかみ
- 2019年登録 甲武信



只見



みなかみ



志賀高原



甲武信



南アルプス



白山



大台ヶ原・大峯山・大杉谷



祖母・傾・大崩



綾



屋久島・口永良部島





# 只見ユネスコエコパーク

Tadami Biosphere Reserve

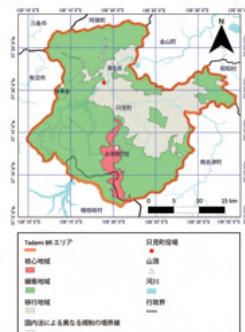


日本ユネスコ  
エコパーク  
ネットワーク  
Japanese  
Biosphere Reserves  
Network



保護地域(核心・緩衝地域)の山域(奥)と移行地域の集落(手前)

只見ユネスコエコパークは福島県西端に位置し、標高1,000m前後の山々に囲まれた山間地域です。国内有数の豪雪地帯にあり、豪雪環境の影響を受けた雪食地形やモザイク植生をはじめとする特異な自然環境、生物多様性が存在します。また、地域社会においてもこれらの環境や資源を持続可能な形で利用した伝統的な暮らしや文化が成り立ってきました。このような豪雪が育んだ自然と生活文化を守り、活かす活動を通じた地域づくりを推進しています。



只見ユネスコエコパーク  
ホームページ

## 自然の特徴

### 豪雪が育む景観

#### ～「雪食地形」と「モザイク植生」～

冬季の豪雪と比較的脆い緑色凝灰岩を基岩とする地質のため、山の斜面は雪崩で削られ、急峻で複雑な「雪食地形」が形成されています。この急峻で複雑な立地環境の上に、各々に適応したブナ林をはじめとした植生が成立し、景観的な植生モザイクが形成されます。こうした景観は標高1,000m以下の山地帯では極めて珍しく、さら自然度の高い状態で広大な面積で存在しています。



集落背後に迫る雪食地形とモザイク植生



希少植物ヒメサユリ

### 豊かな生態系を象徴する動植物

変化に富む植生は、多様な動植物の生育・生息を可能にします。豊かな生態系を象徴する大型猛禽類のイヌワシ、クマタカ、大型哺乳類のツキノワグマが高密度で生息するとともに、多雪地帯に生育する希少種ヒメサユリ、近年新種記載されたタダミハコネサンショウウオが見られます。

## 自然と人間とのかかわり

### 山菜・キノコの採集

只見地域の人々は、春の雪解けとともに顔を出すゼンマイ・ワラビなどの山野草を探取し、秋にはキノコを採り、重要な食料として利用しています。これらは住民の伝統的な入会慣行により、持続可能な形で行われています。



ゼンマイ折り(採取)

地域における手仕事保存会

### 植物を利用した手仕事

半年におよぶ積雪期の家仕事として、伝統的にマタタビ、アケビ、ヒロ口(ミヤマカンスゲ)などの植物を利用したカゴなどの日用品が作られてきました。現在も、地域の保存会により技術の伝承が行われています。

## 自然と生活文化を守り活かす取り組み

### 只見町の野生動植物を保護する条例

地域の生物多様性を守ることは住民の生活基盤を守ることであるとの認識のもと、野生動植物の保護・保全を図るための条例を制定しました。住民に保護監視員を委嘱するなど、住民とともに取り組んでいます。

### 「自然首都・只見」伝承産品

自然との暮らしの中で育まれた地域固有の伝統的な生活文化は貴重な財産です。これを継承し、地域社会に活かすため、地域資源と伝統的な技術を用いた産品について只見町が「自然首都・只見」伝承産品として認証、ブランド化を進めています。



条例を周知する横断幕



「自然首都・只見」伝承産品

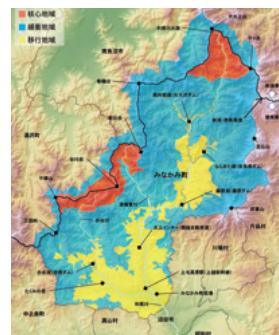


Biosphere Reserves



谷川岳と利根川ラフティング

首都圏3,000万人の生活を支える利根川の最初の一滴を生み出す群馬県みなかみ町。東京都心から1時間ほどで訪れることができる距離にもかかわらず、上信越高原国立公園の谷川岳や利根川源流域というような日本を代表する貴重な自然が数多く残されています。こうしたすばらしい自然のすぐ近くで自然の恵みを受け、温泉やアウトドアなどの観光業、農林業などを営み、自然と上手につきあいながら人々がくらしています。

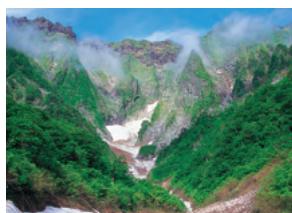


みなかみユネスコエコパーク  
ホームページ

## 自然の特徴



大水上山の雪渓



谷川岳一ノ倉沢

### 利根川のはじまりの一滴

みなかみ町の最北端にある大水上山。この山の頂付近の雪渓から、首都圏3,000万人の生命とくらしを支える利根川がはじまります。

### 谷川連峰

群馬県と新潟県境に位置する2,000m前後の山々で上信越高原国立公園に指定されています。太平洋側と日本海側の大気がぶつかり合う中央分水嶺であり、強い季節風や大量の積雪などの影響を受けてみなかみ側は急峻な岩場となっています。クライマーの聖地としても名高い谷川岳一ノ倉沢の大岩壁では標高1,000mほどの場所でも氷河の痕跡が確認できます。

### ホソバヒナウスユキソウ

高山植物のミヤマウスユキソウの変種で、谷川連峰と至仏山塊だけしか見ることができない、みなかみユネスコエコパーク固有の貴重な植物です。ウスユキソウの中でも特にヨーロッパ・アルプスを代表するエーデルワイスに似ている花として知られています。

## 自然と人間とのかかわり

### ウォーターアウトドア体験

きれいで豊富な利根川の水と、すばらしい自然景観を持つみなかみ町は、日本を代表するウォーターアウトドアのフィールドです。シーズンになると、ラフティングをはじめ、キャニオニングやレイクカヌーなど多様な体験を楽しむことができます。

### 美しい田園空間を楽しむ「たくみの里」

すばらしい自然環境だけではなく、人間社会の営みとともに生まれた農村景観が広がり、人と自然の共生を感じができるみなかみユネスコエコパークを象徴する場所の一つです。



キャニオニング



たくみの里

## 自然をまもり、いかし、ひろめる

### 赤谷プロジェクト

みなかみ町新治地区を流れる赤谷川の上流域に広がる約1万ヘクタールの国有林「赤谷の森」を舞台に、地域住民で組織する「赤谷プロジェクト地域協議会」、「公益財団法人日本自然保護協会」、「林野庁関東森林管理局」の3者が協働し、生物多様性の復元と持続的な地域づくりを進める取組です。

### 谷川岳エコツーリズム

谷川岳周辺ではエコツーリズムが推進されており、国内で3番目、国立公園内としては初のエコツーリズム推進法の認定を受けています。また、「第12回エコツーリズム大賞(環境大臣表彰)」において大賞を受賞するなど、多様なエコツーリズムの活動が展開されています。

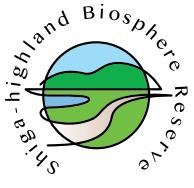


赤谷プロジェクト(環境教育)



エコツアー





# 志賀高原ユネスコエコパーク

Shiga Highland Biosphere Reserve



コバルトブルーに輝く「大沼池」(核心地域)

志賀高原ユネスコエコパークは、長野県の山ノ内町、高山村、群馬県の中之条町、草津町、嬬恋村の2県5町村により構成され、上信越高原国立公園のほぼ中心に位置しています。標高2,000m級の山々、雄大な自然、豊富な温泉資源に恵まれ、1998長野冬季オリンピック会場にもなった国内有数の温泉地・スノーリゾートです。一方で、地域住民の努力により今も原生的な自然が大規模に保たれており、自然環境の保全と利活用により発展してきた地域として、自然と人間社会が共生する持続可能な地域づくりを実践しています。



志賀高原ユネスコエコパーク  
ホームページ



## 自然の特徴

### 火山地帯特有の自然環境

志賀山、笠ヶ岳、草津白根山など複数の火山が密集し、年代の異なる噴火を起源とする特徴ある地質・地形が形成され、世界的にも珍しい渦巻き状の溶岩流の形跡も残されています。火山が作り出した凹凸ある台地上に、原生的な亜高山帯針葉樹林、川が刻んだ深いV字谷、大小多数の湖沼や高層湿原などが存在し、貴重な動植物の生育・生息の場となっています。



日本国道最高地点の眺望「芳ヶ平湿原」



標高1,800mの温泉郷「万座温泉」



草津温泉のシンボル「湯畠」

### 自然(火山)の恵み“温泉”

緩衝地域から移行地域にかけて、湯田中渋温泉郷、信州高山温泉郷、万座温泉、草津温泉など複数の温泉地が点在しています。火山由来の湯量豊富な温泉は自然の恵みとして古くから利用され、現在では温泉旅客業が地域を代表する産業となっています。

## 自然と人間とのかかわり

### 地域住民による資源管理と適正利用

緩衝地域の一部は地元集落の伝統的な共有林となっており、中世以前から入会慣行により野草採取や樹木伐採が管理されています。また、緩衝地域に生息するイワナ在来個体群は地元漁協による適正管理、原種保存が行われるなど、地域住民組織による取組がユネスコエコパークの自然を守る役割を果たしています。

### オリンピック関連道路の環境保全対策

道路改良では、現存植物の保全と表土復元、動物専用の移動トンネルの建設、橋梁やトンネルの多用により地山改变を極力抑える設計など、自然環境の保全対策が配慮されました。



雑魚川水系の原種「ニッコウイワナ」



オリンピック道路の「トンネルと橋梁」

## 自然の恵みを生かした産業振興

### 環境学習プログラム

核心地域や緩衝地域を実際に歩いて公認ガイドから説明を受けながら、自然の大さや自然と人間の共生について学ぶプログラム。毎年、全国から多くの学校が志賀高原を訪れる体験しており、このメニューを地域の観光業に生かす仕組みも構築されています。

### 環境保全型農業

高山村の移行地域では、生ゴミや家畜の糞などを発酵させ良質な有機堆肥を作りて農地に還元する取組や、人工性フェロモンを用いた減農薬栽培など、環境に配慮した農業を推進しながら農産物のブランド化に取り組んでいます。



ユネスコエコパーク「環境学習プログラム」



資源の堆肥化「高山村地力増進施設」





# 甲武信ユネスコエコパーク

Kobushi Biosphere Reserve



西沢渓谷

甲武信ユネスコエコパークは、甲武信ヶ岳、金峰山、雲取山等の日本百名山が連なる奥秩父主稜を中心とした広大な山脈地域であり、荒川、多摩川、笛吹川(富士川)、千曲川(信濃川)を含む主要な河川の水源地となっています。また、山岳や森に加えて御岳昇仙峡等の渓谷が、四季折々に彩りを変える日本の素朴な美しい自然に恵まれており、首都圏近郊にありながら、連続性があり、生物多様性に富む、貴重な生態系が広く保全されています。



甲武信ユネスコエコパーク  
ホームページ



## 自然の特徴

### 多様性に富む深い森林

甲武信は、気候的にも夏季を中心に比較的多雨であるため、森林の成長が促されています。また、活火山が含まれていないため、噴火による植生遷移の後退が起こらず、地形変化が最小限に食い止められたことで自然度が高く多様性豊かな森林が発達しました。



大滝のカエデ



ヒメギフチョウ

### 豊富なカエデ類

ブナと同所的に生育することが多いカエデ類は、山地の日当たりが良い谷間や谷間に接する斜面を好み、国内27種のうち22種が渓畔から亜高山帯まで標高に応じて分布しています。

### チョウ類は希少種の宝庫

多様な環境に生息する動物相も豊富です。例えば、チョウ類は、亜高山性から草原性、里地・里山の半自然性の生息地にまで分布し、126種が確認されています。その中には24種の絶滅危惧種が含まれており、希少種の宝庫となっています。

## 自然と人間とのかかわり

### 山岳信仰により守られてきた自然

金峰山を御神体とする金櫻神社や御眷属信仰の神社である三峯神社、そして信仰の担い手である修験者達により聖域であるとして樹木の伐採が禁じられ、稜線付近の原生林の保全が図らきてきました。

### 独特な風土の中で形成された伝統文化

修験者だけでなく一般の民衆により守られてきた文化として、山梨県では道祖神を祀る文化が伝えられており、「一之瀬高橋の春駒」や「黒平の能三番」といった伝統芸能が、その地に住み続ける人々や麓に移り住んだ人々により、今も保全・継承されています。



金峰山



一之瀬高橋の春駒

## 特色ある農業

### 果樹栽培

山梨県の峡東地域では、江戸時代以前よりブドウの産地として知られ、中でも日本固有の品種である「甲州ぶどう」は、国際ぶどう・ぶどう酒機構によりワイン醸造用品種として登録され、甲州ワインの名が世界的に広まる大きな契機となりました。

### 高原野菜栽培

長野県川上村は、レタスやハツサイ等の高原野菜の栽培で知られ、特にレタスは国内一の生産量を誇り、千曲川の源流に広がる良質な水や土壤に冷涼な気候が相まって、高品質な野菜が生産されています。



ブドウ畠



レタス畠





# 南アルプスユネスコエコパーク

Minami-Alps Biosphere Reserve



赤石岳とお花畠

標高3,000m級の山々が連なる南アルプスユネスコエコパークは、豊かな自然環境を有し、固有種や氷河期の遺存種など世界的にも貴重な種が多く生息しています。また、山から流れる川の流域ごとに、昔から地域特有の生活文化がつくられ、その伝統を今の時代に継承してきました。

南アルプスを取り巻く山梨県、長野県、静岡県の3県10市町村が手を取り合い、この美しい自然とそこに暮らす人々の営みを未来へつなげるための活動を進めています。



南アルプスユネスコエコパーク  
ホームページ

## 自然の特徴

### 隆起と浸食を続ける山地

南アルプスは、約100万年前から活発に隆起を始め、現在でも年間3~4mmの速度で隆起していると言われています。また、山地の急速な隆起に伴い、雨風による激しい浸食や崩壊が多く見られます。この、隆起と浸食が、南アルプスの雄大な景観を形づけています。



南アルプスの山岳景観(栗沢山からの眺望)



タカネマンズナ(氷河期の遺存種)

### 標高2,700mまでつづく森と生きものたち

南アルプスの森林限界は2,700m程度と高く、これは気象や地質の影響によるものです。また、低標高から高山帯にかけて植生の顕著な垂直分布が見られ、豊かな森林に多様な動植物が生息しています。

### 氷河期の生き残りと固有種

南アルプスには、氷河期に分布を広げ、その後温暖になっていく過程で気温の低い高山に残ったとされる生物(氷河期の遺存種)が見られます。また、南アルプスやその周辺地域にのみ分布している固有種が多いことも特徴です。

## 自然と人間とのかかわり

### 山間地域のくらしと山岳信仰

お米をつくりにくい山間地域では、雑穀などを栽培する焼畑農業や野生動植物の狩猟・採取、山地斜面を利用した農作物の生産、木材の利用などが生活の糧となっていました。また、古来より南アルプスの山々は信仰の対象とされてきました。鳳凰山信仰や北岳信仰などがあり、修験者が開いた登山道も数多く残されています。

### 今も受け継がれる伝統文化・芸能

南アルプスユネスコエコパークでは、大鹿村の大鹿歌舞伎や飯田市遠山郷の霜月祭り、川根本町に伝わる徳山の盆踊などの伝統的な祭事や民俗芸能が今も大切に伝承され、厳しい自然と共に生きる人々のよりどころとなっています。



山地斜面に降り注ぐ川霧によって良質な茶葉ができる川根茶



大鹿歌舞伎

## 自然環境保全活動

### 二ホンジカの食害対策

南アルプスに生息する二ホンジカは、近年急激に数を増やし、山麓から高山帯にいたる広い範囲で植生等へ影響をもたらしています。貴重な高山植物を守るために、様々な機関が協力しながら防鹿柵の設置や外来植物の除去等を行っています。

### ライチョウ保護の取り組み

ライチョウは近年、温暖化などの影響によりその数を大きく減らし、絶滅の危機に瀕しています。そのような状況を食い止めるため、「ライチョウサポーター制度」を創設し、ライチョウを見守るサポーターの養成や生息状況を登山者等と継続的に調査する仕組みを構築しています。



防鹿柵の設置



ライチョウ



Biosphere Reserves



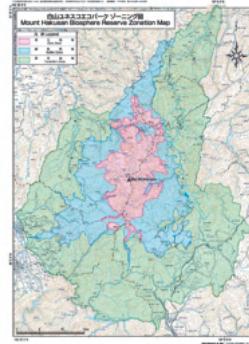
# 白山ユネスコエコパーク

Mount Hakusan Biosphere Reserve



雪の白山

白山ユネスコエコパークは、白山の周辺をエリアとする、1980年に登録された日本で最初のユネスコエコパークのひとつです。2016年には、登録済みであった核心地域、緩衝地域に加え、新たに移行地域を設けてエリアを広げ、拡張登録されています。富山県南砺市、石川県白山市、福井県勝山市、大野市、岐阜県高山市、郡上市、白川村の4県7市村にまたがるエリアで生態系の保全と活用の推進が図られています。



白山ユネスコエコパーク  
ホームページ

## 自然の特徴

### 最前線としての、高山帯・豪雪地帯

標高2,702mの白山は、高山帯をもつ日本の山岳の中で最も西に位置しています。冬に大量の雪が降るこの地は、世界で最も低緯度に位置する豪雪地の1つであり、雪のほとんどは春から夏にかけて解け出していく。



屋根雪おろし作業

### 高山植物の宝庫

白山では日本国内の西限又は南限となる高山植物が多く見られます。また、山頂部では積雪の多寡や地形の形成に応じた多様な高山植物群落を見ることができます。標準和名に「ハクサン」を冠するもの多くあります。



ハクサンコザクラ

### 多様な動植物を育む広大なブナ林

白山山麓には広大なブナ林が広がり、ツキノワグマやニホンカモシカ等の大型哺乳類や、イヌワシ等の大型猛禽類が高い密度で生息しています。



広大なブナ林

## 自然と人間とのかかわり

### 人々の信仰を集めてきた白山

白山を源流とする豊富な水やその恵みへの感謝と畏敬の念などから、白山は古くより多くの人々の信仰を集め、加賀・美濃・越前から登拝の道(禅定道)が開かれました。また、全国には2,700社以上とされる白山神社が建てられています。

### 山村に適応した生活とその文化

白山麓では、世界文化遺産「白川郷・五箇山の合掌造り集落」や白山市白峰重要伝統的建造物群保存地区等にみられるように、白山を源とする4水系の豊富な水をはじめ、山の恵みを活かし、山に適応した持続可能な生活を営んできました。



白山神社



茅葺屋根の葺き替え

## 白山の恵みを守り、活かす

### 外来植物除去活動

白山国立公園の原生的な生態系の維持・回復を図るため、白山生態系維持回復事業に取り組んでおり、白山周辺の各地で、オオバコやオオハンゴンソウを中心とする特定外来植物の除去作業が行われています。

### ESDの取り組み

白山ユネスコエコパークでは、エリア内の多くの小中学校がふるさと学習や環境保全活動を通して、地域の自然環境を理解し、守り続ける心を育む教育に取り組んでいます。



外来植物除去作業



自然観察会の様子





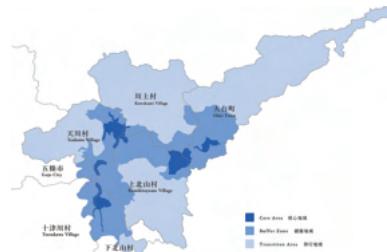
# 大台ヶ原・大峯山・大杉谷ユネスコエコパーク

Mount Odaigahara, Mount Omine and Osugidani Biosphere Reserve



大杉谷 シシ淵

麓にはシイ・カシ、標高が上がるにつれ現れるモミ・ツガ林を経て、ブナなどの落葉広葉樹林、さらにトウヒやシラビソの亜高山帯針葉樹林まで、日本の代表的な森林が連続してみられます。熊野灘に近く、多くの雨を降らせることにより、紀伊半島を流れる主要な河川である宮川・紀の川・熊野川の水源地です。エリア内的一部分は、山岳信仰の場としても知られ「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界文化遺産にも指定されています。



大台ヶ原・大峯山・大杉谷ユネスコエコパーク  
ホームページ



## 自然の特徴

### 多様な生態系・雄大な自然

多様な生態系が保たれている、生物多様性の保全上、最重要とされる「核心地域」。法律などによって厳格に保護し、長期的に保存。見事なまでに多様で美しい原生の自然が息づく地域です。その中に突如として現れる自然が作り出した雄大な景色は見た人すべてに感動を与えます。



下北山村 トノキ巨樹群



川上村 水源地の森

## 自然と人間とのかかわり

### 自然を体で感じる

豊かな自然を背景に、エリア内に点在する団体が、エコツーリズムなどを実施し、四季を通して釣りなどのアクティビティが楽しめます。加えて洞川温泉や入之波温泉、小処温泉など保養環境も整っています。

### 次世代へつなぐ

エリア内の各地域では、それぞれの自然環境や生き物の営みを楽しく学べる施設を整備。次世代を担う子どもたちに、郷土愛を育むための教育を実施しています。



エコツーリズムの様子



天川村 洞川エコミュージアムセンター

## 自然の保全・再生へ

### 保護区・利用調整区域の設定

「核心地域」は国指定の鳥獣保護区および吉野熊野国立公園にも指定されています。狩猟・開発・伐採・植物採取等が規制され、利用調整区では入山人数の調整や事前レクチャーなどを実施しています。

### 自然再生事業

大台ヶ原では、環境省が策定した「大台ヶ原自然再生推進計画2014」に基づくさまざまな事業が100年単位の視点で進められ、大峯山系でもオオヤマレンゲをはじめとする植生復元事業が行われています。



大台ヶ原



オオヤマレンゲ

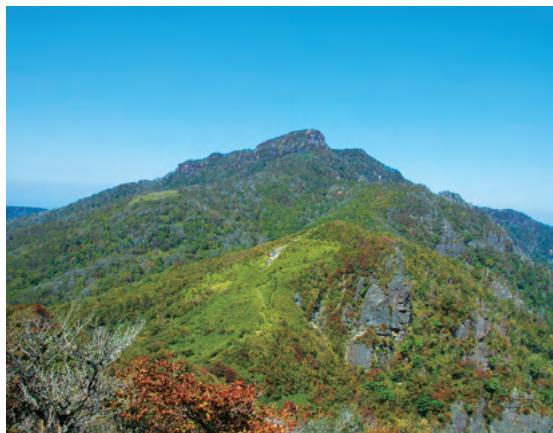


Biosphere Reserves



# 祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク

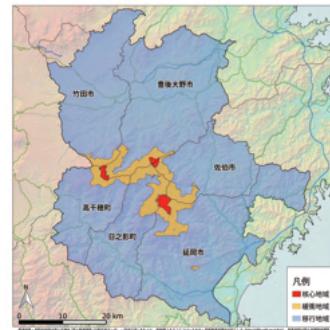
Sobo, Katamuki and Okue Biosphere Reserve



天狗岩からみた祖母山

大分県と宮崎県にまたがる祖母・傾・大崩山系は、九州最高峰級の山々からなる急峻な岩峰や多様な渓谷など独特的な景観美と原生的な自然を併せ持ち、希少動植物の宝庫としても知られています。祖母・傾・大崩山系周辺の人々は、昔からこの豊かな自然を敬い、自然の恵みを大切に守りながら暮らしてきました。これからも、この地域の豊かな自然環境のほか、自然への畏敬の念とともに発展を遂げてきた人々の営みを次世代へ継承していくことを目指します。

[祖母・傾・大崩ユネスコエコパークホームページ](#)



## 自然の特徴

### 急峻な山と深い渓谷

急峻な山岳地形と雄大な稜線美で知られる祖母・傾・大崩山系は、起伏に富んだ岩峰群や切り立った崖、谷あいを走る幾筋もの渓谷など、複雑な地形地質をもち、四季折々で表情を変えるその独特な景観が、訪れる人々を魅了します。



急峻な山岳地系の大崩山

### 幅広い植生と希少性

標高が高く原生的な天然林が多く残された祖母・傾・大崩山系では、山の高さに応じ、暖温帯から冷温帯までの幅広い植生を見ることができます。また、特別天然記念物のニホンカモシカや、日本列島の成り立ちを表すとされる「ソハヤキ要素」の植物など、限られた地域にしか生育・生息しない希少な動植物が数多く存在する貴重な地域です。

\*日本列島のうち、古くから陸地であった紀伊、四国、九州の山地帯に共通して分布する日本固有種のこと。



「ソハヤキ要素」の植物であるキレンゲショウマ

## 自然と人間とのかかわり

### 自然を敬い、受け継がれる伝統

古くからこの地域では、日々の営みに密接に関わっている祖母・傾・大崩山系の恵みに感謝し、豊作や安全を祈願する祭礼が行われ、神楽や獅子舞が奉納されてきました。自然を敬う気持ちを今でも忘れずに、その伝統を次世代へ受け継ぐ取組が行われています。

### 自然の恵みを活かした暮らし

急峻な地形という厳しい自然環境の中でその恵みを最大限活かそうと、人々は古くから知恵と工夫を重ねながら、農業、林業、竹細工など様々な産業が脈々と受け継がれています。



高千穂夜神楽



急峻な山あいの地形を活かした棚田

## 次世代育成に向けた活動

### ユネスコエコパーク交流キャンプ

地域(大分県佐伯市、竹田市、豊後大野市、宮崎県延岡市、高千穂町、日之影町)の子どもたちが集まり、市町の枠を越えて一緒に自然や伝統などに触ることで、心の豊かさを培い、環境保全への関心を高めながら郷土への愛着を醸成していくため、交流キャンプを開催しています。

### 漫画版解説冊子

地域内の小学校4~6年生を対象として、祖母・傾・大崩ユネスコエコパークの自然や文化などを漫画で分かりやすく解説した冊子を作成し配布しています。



6市町交流キャンプ



漫画版解説冊子





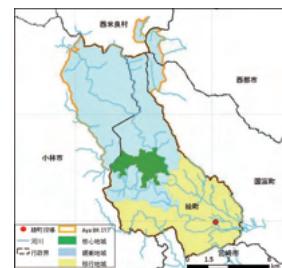
# 綾ユネスコエコパーク

Aya Biosphere Reserve



自然と人が共生するまち 綾町

綾ユネスコエコパークは宮崎県のほぼ中央に位置し、九州中央山地に連なる険しい山々から宮崎平野へと流下する豊かな河川環境に囲まれています。この地域の最大の魅力は、日本最大級といわれる照葉樹林(常緑広葉樹林)の森と、森が育んできた文化です。この森に生きる多種多様な動植物の保全に努めるとともに、自然生態系農業や、工芸品の産地としても知られ、森の恵みを暮らしの中に取り入れながら経済活動も含めた持続可能なまちづくりを進めています。



綾ユネスコエコパーク  
ホームページ



## 自然の特徴

### 日本最大級の照葉樹自然林

降水量の多い亜熱帯から暖温帯に分布する照葉樹林の構成種は、カシやシイなど一年中緑の葉をついている広葉樹で、冬の寒さに耐えるため、その葉は厚く光沢があります。日本は、東アジアの照葉樹林帯の北限付近にあたり、綾には日本最大級の照葉樹自然林が残されています。



綾の照葉樹林と照葉大吊橋



ヒュウガアジサイ

### 西南日本の森林自然の縮図

照葉樹自然林から連続して、標高1,200m以上のエリアには氷河期の名残とされるブナなどの夏緑広葉樹の自然林も残されており、多くの日本固有の生き物が暮らすなど、西南日本の森林自然の縮図を見ることができます。

### 照葉樹林文化

照葉樹林が成立する東アジア地域には、みそ、しょうゆ、納豆をはじめ、衣・食・住・神話・儀礼等、共通の文化(照葉樹林文化)が見られます。

## 自然と人間とのかかわり

### 自然生態系農業

綾町では、化学合成された肥料や農薬をなるべく使用しない農法の導入と実践に努め、水や大地を汚さない自然生態系を生かした有機農業(自然生態系農業)に町をあげて取り組むことで、安全で安心な野菜を生産しています。

### 手づくり工芸の里

古くから綾町では、豊かな森林資源を活かした木工品や染織物、陶芸、ガラス工芸、竹細工などの伝統工芸品が生産されており、町内に約40の工房があります。毎年、手づくり工芸品などを一同に集めて展示販売をする綾工芸まつりを開催しています。



有機農業



綾工芸まつり

## 産学官民の連携

### 綾の照葉樹林プロジェクト

2005年から九州森林管理局、宮崎県、綾町、(公財)日本自然保護協会、(一社)てるはの森の会の5者協働で「綾の照葉樹林プロジェクト」に取り組み、照葉樹自然林を保護し、その周辺を100年かけて復元することを目指しています。

### 綾町イオンの森づくり

(公財)イオン環境財団と連携して、地元中学校の校舎を建てるために伐採した町有林(綾町イオンの森)を対象に、植樹活動や環境教育を行うと共に、地元の大学とも連携のもと、生物多様性豊かな自然環境を復元するための里山づくりを進めています。



照葉樹林復元ボランティアによるシカ柵ネット張り



綾町イオンの森植樹祭



Biosphere Reserves



Yakushima and Kuchinoerabu Jima Biosphere Reserve

# 屋久島・口永良部島ユネスコエコパーク

Yakushima and Kuchinoerabu Jima Biosphere Reserve



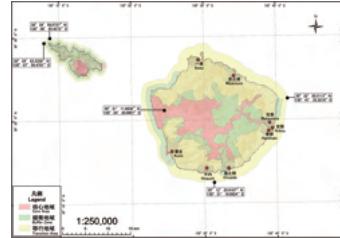
日本ユネスコ  
エコパーク  
ネットワーク  
Japanese  
Biosphere Reserves  
Network



九州最高峰宮之浦岳とヤクシマシャクナゲ(6月)

鹿児島県の屋久島と2016年に拡張登録された口永良部島の全域と沿岸の海域からなり、日本で唯一海域を含むBRとなっています。屋久島は、九州最高峰宮之浦岳、縄文杉、海岸から山頂までの植生の垂直分布が残る西部林道、北太平洋で最も高密度にアカウミガメが産卵に訪れる永田浜を有しています。口永良部島は、屋久島の西北西12kmに位置するひょうたん型の島です。火山と良質の温泉を有し、豊かな植生が火山地形に広がるその景観から「緑の火山島」と称されています。

[屋久島・口永良部島ユネスコエコパークホームページ](#)



## 自然の特徴

### ユネスコエコパークと世界自然遺産の二重登録地

屋久島は、ユネスコエコパークとともに世界自然遺産地域にも登録されています。温帯地域に位置しながら、九州最高峰宮之浦岳をはじめとする高峰が連なっていることから、亜熱帯・暖温帯から亜寒帯・冷温帯までに至る植生の垂直分布を有する生態系と樹齢千年を超えるヤクシマシャクナゲを含む天然林が織りなす景観が高い評価を得ています。



口永良部島古岳火口



縄文杉

### 火山と共に生きる～復興を願い～

2015年に発生した大噴火で、口永良部島住民たちは、全島避難を余儀なくされました。その後ユネスコエコパークに拡張登録されたこともあり、BRの理念を活かした災害復興や地域振興に取り組んでいます。また、口永良部島に定期的に訪れる、多くの大学生や高校生とともに「学びの島」づくりを目指し、地域振興に役立てています。

## 自然と人間とのかかわり

### 屋久島憲章

屋久島の先人たちは、自然を畏れ敬い、自然を損なわず糧を得る生活を営んでいました。そんな「共生」思想を受け継いだ「屋久島憲章」には、貴重な自然を誇り、環境と調和した豊かな地域社会づくりを目指すことを掲げています。

### 観光利用と環境保全

「屋久島公認ガイド」によるエコツアーハーは、安心安全な自然体験の提供はもちろん、島の歴史や文化も紹介しています。山岳部では、将来にわたる自然環境保全のため、利用者の皆様へ「世界自然遺産屋久島山岳部環境保全協力金」をお願いしています。



花之江河と黒味岳



国指定天然記念物エラブオオコウモリ

## 持続可能な地域社会を目指して

### クリーンエネルギーの利用

日本でも有数の降水量を誇る屋久島では、その豊富な雨を利用した水力発電で人々は暮らしています。自然エネルギーでほぼ完全に自給している屋久島の水力発電は、CO<sub>2</sub>削減や資源の持続可能な利用に寄与しています。

### 里のエコツアー

海岸沿いに点在する集落には、自然と共に生きる生活の支えとして、固有の伝統行事や祭りなどがあります。山岳部が注目される屋久島ですが、地域ごとに気象や文化を異なる集落内を巡るエコツアーハーに参加して、島で暮らす人々の声を聞いてみませんか。



安房川で楽しむカヌー



屋久島ポンカン収穫作業



## 1980年 志賀高原、白山、大台ヶ原・大峯山、屋久島が新規登録

生物圏保存地域制度が1976年に開始されて4年後、日本でも4か所の地域が登録されました。しかしながら国が中心となり登録が行われ、生物圏保存地域の存在自体、一部の人しか知らされておらず、残念ながら30年間、活動は行われず休眠している状況でした。

## 2010年 生物圏保存地域の国内通称がユネスコエコパークに決定

生物圏保存地域に親しみを持ってもらうため日本における通称をユネスコエコパークとすることを日本ユネスコ国内委員会が決定しました。

## 2010年 日本ユネスコエコパークネットワーク(J-BR-net)設立

最初の登録から30年後、国内のMAB計画を推進する研究者らを中心に国内ユネスコエコパークの連合組織として、日本ユネスコエコパークネットワーク(J-BR-net)が設立されました。当時はメールによる情報交換が主で、メンバーによる会合等は行われていませんでした。

## 2012年 綾が新規登録

国内において32年ぶりに綾が生物圏保存地域に登録されました。先に登録された4つの地域は国が主体となり登録が行われましたが、綾は地域の人々が中心になって登録を行った日本で最初の生物圏保存地域となりました。

## 2013年 第1回 日本ユネスコエコパークネットワーク大会(会場:只見)開催

生物圏保存地域の自治体関係者や研究者、更に国における省庁の関係者など、生物圏保存地域に関わる関係者が初めて一堂に会しました。以降、毎年日本ユネスコエコパークネットワーク大会が開催されています。

## 2014年 只見、南アルプスが新規登録 志賀高原が拡張登録

只見と南アルプスが新たに生物圏保存地域に登録され、国内における登録地域が7地域となりました。また、1980年に登録されていた志賀高原が1992年の制度改定を適用するため拡張登録を行いました。

## 2015年 日本ユネスコエコパークネットワーク組織再編(J-BR-net → JBRN)

第3回 日本ユネスコエコパークネットワーク大会(会場:志賀高原)において、これまでの研究者を中心としたネットワークから、登録地域が中心となったネットワークへと組織が再編成されました。これにより日本ユネスコエコパークネットワークは国内登録地域が連携・協力し、情報交換・交流・協働を通じてユネスコエコパークの活動の発展と向上を目指す組織となりました。

## 2016年 白山、大台ヶ原・大峯山・大杉谷、屋久島・口永良部島が拡張登録

1980年に登録されていた白山、大台ヶ原・大峯山、屋久島が1992年の制度改定を適用するため拡張登録を行いました。登録エリアの変更にともない大台ヶ原・大峯山は大台ヶ原・大峯山・大杉谷に、屋久島は屋久島・口永良部島に名称が変更されました。

## 2017年 祖母・傾・大崩、みなみが新規登録

祖母・傾・大崩、みなみが新たに生物圏保存地域に登録され、国内における登録地域が9地域となりました。

## 2019年 甲武信が新規登録

甲武信が新たに生物圏保存地域に登録され、国内における登録地域が10地域となりました。



日本ユネスコエコパークネットワーク(英語名称:Japanese Biosphere Reserves Network、略称:JBRN)は、日本国内のユネスコエコパーク登録地間の情報交換、交流、協働を通じたユネスコエコパークの活動の発展と向上を目指しています。



## JBRNの事業

- ユネスコエコパーク推進に関する事業
- 各種要望活動に関する事業
- 情報収集・発信及び普及に関する事業
- その他、目的を達成するために必要な事業

### 情報交換会や現地視察会の開催

各地域のユネスコエコパークに関する調査研究の成果、事業の戦略、ノウハウ等の共有を図るため情報交換会や各地域の現地視察会などを開催しています。



情報交換会



現地研修会



WEBでの連絡会議



国際会議への参加

### 要望活動

ユネスコエコパーク及びJBRNの活動目的の達成のため関係機関への要望活動を行っています。

- ・生物多様性国家戦略  
2023-2030素案に対する意見書  
(2022年提出、環境省および文部科学省宛)

### イベントでの普及啓発

ユネスコエコパーク及びJBRNの認知度向上・普及を図るため各種イベントにブース出展・参加しています。



こども露ヶ関見学デー



ユネスコスクール全国大会

### 情報交換会や現地視察会の開催

ユネスコエコパーク活動の推進のため各種機関・団体と連携を図っています。

#### 【国・研究者との連携】

- ・日本ユネスコ国内委員会事務局  
(文部科学省内、ユネスコMAB計画を所管)
- ・日本MAB計画支援委員会  
(ユネスコMAB計画の国内研究者による有志団体)

#### 【民間との連携】

- ・公益財団法人イオン環境財団(2017年連携協定締結)  
(植樹をはじめ、地域に密着した多面的な環境活動に取り組む財団)



## 只見ユネスコエコパーク

～豪雪が生んだ自然と生活文化を守り、活かす～



福島県(只見町、檜枝岐村)

## みなかみユネスコエコパーク

～利根川源流のまち 水と森林と人を育む～



群馬県(みなかみ町)、新潟県(魚沼市、南魚沼市、湯沢町)

## 志賀高原ユネスコエコパーク

～受け継いだ遺産を学び、活かし、次世代へ～



長野県(山ノ内町、高山村)、群馬県(中之条町、草津町、嬬恋村)

## 甲武信ユネスコエコパーク

～四大河の源流域～



山梨県(甲府市、山梨市、大月市、北杜市、甲斐市、甲州市、小菅村、丹波山村)、埼玉県(秩父市、小鹿野町)、長野県(川上村)、東京都(奥多摩町)

## 南アルプスユネスコエコパーク

～高い山、深い谷が育む生物と文化の多様性～



山梨県(韮崎市、南アルプス市、北杜市、早川町)、長野県(飯田市、伊那市、富士見町、大鹿村)、静岡県(静岡市、川根本町)

## 白山ユネスコエコパーク

～白山の恵みを守り、活かす～



富山県(南砺市)、石川県(白山市)、福井県(大野市、勝山市)、岐阜県(高山市、郡上市、白川村)

## 大台ヶ原・大峯山・大杉谷ユネスコエコパーク

～Live together, Lead to the future～



三重県(大台町)、奈良県(上北山村、川上村、下北山村、天川村)

## 祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク

～尖峰と渓谷が育む森と水、いのちの営みを次世代へ～



大分県(佐伯市、竹田市、豊後大野市)、宮崎県(延岡市、高千穂町、日之影町)

## 綾ユネスコエコパーク

～自然と共に生き、人と共に生きるまち～



宮崎県(綾町、小林市、西都市、国富町、西米良村)

## 屋久島・口永良部島ユネスコエコパーク

～火の島と水の島。黒潮がつなぐ自然と人のエコパーク～



鹿児島県(屋久島町)



日本ユネスコエコパークネットワーク  
Japanese Biosphere Reserves Network

問い合わせ先はホームページよりご確認ください。

<https://main-jbrn.ssl-lollipop.jp/>



2023年6月作成